

令和8年度第1回滝沢市子ども・子育て会議 議事録

- 1 開催日時 令和8年6月10日（水） 15:00～16:15
- 2 開催場所 滝沢市役所4階中会議室
- 3 出席者 （委員）
齊藤とも絵委員、三上礼奈委員、佐藤正和委員、山口淑子委員、小笠原香委員、
前田康夫委員、ウッドオール美枝委員、水本真美委員、大塚健樹委員、
アングホッフア司寿子委員、芳賀寛委員
（市側出席者）
滝沢市副市長 高橋健二、健康こども部長 猿舘睦子
子育て課長 佐々木澄子、同総括主査 阿部江利子、同主任主査 谷藤聡
同主査 兼平彩夏
こども家庭センター所長 藤島紀子、同総括主査兼総括保健師 佐々木悠美
- 4 傍聴者 なし
- 5 議 事

（1）「滝沢市こども計画（案）」の策定方針及び今後の審議スケジュールについて

会議経過

（会議に先立ち、資料の確認）

1 開 会

委員15名中11名の出席があり、滝沢市子ども・子育て会議設置条例第6条第2項により委員の半数以上の出席であることから、会議が成立することを宣言し開会。

2 委嘱状交付

副市長より委嘱状の交付（齊藤委員が代表受領、代表以外は机上に配布）

3 挨拶

- ・市長挨拶 副市長代読

4 出席者紹介

委員自己紹介、事務局自己紹介

5 会長・副会長の互選について

- ・会長選任について副市長が仮議長として進行。会長の選出方法について、委員からの自薦他薦はなく、事務局案を提示してほしい旨の発言あり。事務局から「大塚健樹委員」を案として提示。異議なしとの意見により、会長に「大塚健樹委員」が選出された。滝沢市子ども・子育て会議設置条例第5条第2項により、会長が議長と規定されていることから議事進行を大塚会長に代わることを宣言。（以後、会長が議長として進行。）
- ・副会長の選出について、委員からの自薦他薦はなく、事務局案を提示してほしい旨の発言あり。事務局から「小笠原香委員」を案として提示。異議なしとの意見により、副会長に「小笠原香委員」が選出された。
- ・諮問書の授与について、大塚会長へ副市長より諮問書を授与。（授与後、副市長は他の公務のため退席）

6 議 事

- ・議事の審議に先立ち事務局より会議の趣旨の説明、会議の公開等について説明し了承いただく。
- ・議事録署名人の指名について、滝沢市子ども・子育て会議運営要領第3条第2項に基づき、議事録署名人に「三上礼奈委員」及び「佐藤正和委員」が指名された。

(1) 「滝沢市こども計画(案)」の策定方針及び今後の審議スケジュールについて

会 長： それでは議題(1)「滝沢市こども計画(案)」の策定方針及び今後の審議スケジュールについてに入りたいと思います。事務局からご説明よろしく願いいたします。

事務局： 私の方から説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

事前にお送りしておりました左肩を閉じた資料、滝沢市こども計画の策定方針および今後の審議スケジュールについてという題の資料をお手元に御用意いただければと思います。

まず1ページの「1 策定の目的」と「2 こども政策とこども計画の関係性」のところでございます。本計画は、こども基本法に基づく市町村こども計画として、全てのこどもが幸福に暮らせる社会の実現を目指し、施策を総合的に推進するために策定するものです。こども基本法では、「こどもの意見の尊重」が義務付けられておりますので、当事者の声をしっかりと聴きながら進めてまいりたいと思います。これまで子育て行政で広く使われてきた漢字の子がつく「子ども」は18歳までが対象でしたが、今回のひらがなの「こども」については、心と体の成長の段階にある人ということで、おおむね39歳までが対象になります。

岩手県内の策定状況といたしましては、岩手県が令和7年3月に県のこども計画、「いわてこどもプラン」を策定したことを受けまして、盛岡広域の各町や、県内主要な市での策定又は今年度中の策定が進んでおります。本市におきましても、国の大綱と県の計画を勘案して今年度策定することといたしました。

続きまして、2ページをご覧ください。4 滝沢市こども計画の体系図」をご覧ください。

策定した計画を市として実施する期間については、令和9年度から令和11年度までの3年間といたします。これは、現在の策定している第3期滝沢市子ども・子育て支援事業計画の終期と合わせるもので、これまで市として策定していなかった「子ども・若者計画」や「放課後の児童対策」、個別に策定していた「母子保健の計画」などを一体的な計画として再編成するものでございます。

続きまして、3ページを御覧ください。「こども・若者、養育者等の意見反映に係るアンケート調査の実施概要」でございます。

大きく2つの調査を実施いたします。まず一つ目が、こどもの生活状況に関する調査ということでこちらは対象が小学校5年生と中学校2年生、それからそれぞれの保護者の方を対象にしております。教育委員会と各小中学校にご協力いただいて、この調査は6月1日から開始しているところでございます。

右側にありますこども・若者の意識に関する調査こちらは15歳から39歳までの若者を対象とした調査で、内容を今精査しております。今月中に発送して7月までに調査を終えるという予定で進めているところでございます。

本日クリップ留めのアンケート調査票をお配りさせていただきましたが、「ちゃぐぽん」がついているのが、子どもたち向けのアンケートでございます。

そしてあと保護者用が続けてありますが、子どもと保護者さんには同じIDを付番させていただいて、調査結果分析するときに紐付けて分析できるような形をとらせていただいております。

それから最後の子ども・若者の調査についてですが、こちらはまだ内容を精査しているところですが、若者については庁内のプロジェクトチームの各課にも内容を確認してもらっておりましてだいま最終調整を行っております。

先ほどの資料に戻っていただいて、最後の4ページのところをご覧ください。「6経過及び今後の策定スケジュール」でございます。

本日、令和8年4月から6月のところですが、本日の会議で、まず最初の諮問を、先ほど副市長の方から渡していただいたところですが、その諮問をいただいてこれから本格的な策定に入ります。

今後は秋頃に予定しております次の会議で、アンケート結果の分析と計画の骨子案について、こちらの会議にお諮りさせていただいて、その後、10月から11月頃に予定しておりますパブリックコメントを経まして、そこから最後、皆様から最終的な答申をいただくというような予定としております。

委員の皆様、これからの審議へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。事務局からの趣旨説明は以上でございます。

会 長： どうもご説明ありがとうございました。ただいま事務局の方からご説明ありましたが、何か質問とかご意見があればここで賜りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

委 員： お伺いしたいのは滝沢市子育て支援プロジェクトチームのメンバーですとか、あとはその会議内容ですとかそういったものを私らが見られるのか、教えていただけるのか、そういったことをお伺いしたいのですがお願いします。

会 長： 事務局よろしいでしょうか。

事務局： プロジェクトチーム会議はこれまでも度々やってきましたけれども、今回こども計画を策定するに当たってチームの構成メンバーを追加しまして、若者活躍の部署などが増えているので、全部で15の課が関わっております。読み上げてもよろしいですか。

まず、これまでも入っております地域づくり推進課、健康づくり課、子育て課、こども家庭センター、保険年金課、地域福祉課、生活福祉課、観光物産課。今回追加になったのは若者活躍推進室で、こちらは大学との連携や就職関係を担当している部署になります。それから新たに加わったのが都市政策課、河川公園課。こちらは計画を策定したことによって整備に使える予算がつくかもしれないところもありまして、子どもに関わるものの整備に関係するかということで入ってもらいました。それから企画政策課。庁内の総合的な調整であったり、少子化対策の担当部署ということで入っております。

あとは、教育委員会事務局はこれまでどおり教育総務課、学校教育指導課、生涯学習スポーツ課に入っていただいて、全部で15の課で作っているプロジェクトチーム会議となります。

4月から6月のスケジュールのところに記載させていただいておりますが、第1回

の会議を5月25日に開催いたしました。

計画を策定することについては、昨年度中に庁内で意思決定はしていたところでしたが、改めてこの計画がどの範囲まで含めるものであるとか、年度内どのようなスケジュールで進めるかっていうのをみんなで確認をしたり、あとは先ほど見ていただいたアンケート調査の内容についての確認をしていただいて意見を求めたところでございます。今のところは1回目の会議の進捗はそのくらいでございます。

内部会議については公表していないところございました。

会 長： よろしいですか。

委 員： はい。ありがとうございます。結局は同列のスケジュールで掲げられているところだと思うので、今そのメンバーをお伺いしたところ結局行政組織内での抽出した方々での編成という理解でよろしいですね。

その中で、私達のこの集まっているメンバーとは全く違うというところから、例えばこのプロジェクトチームが先んじて「そういうのは駄目ですよ」、「そういうのは受け付けません。」みたいなもので決めていたものを、もし私達が「こういうのどうですか」という話になったときに、そこから先に進めるのか進めないのかっていうふうなものもあるかと思うのですが、どこかでこのプロジェクトチームと私達の会とですり合わせをする場はあるのでしょうか。

会 長： その辺はどうでしょうか。

事務局： まず、内部で出た意見については、その時点で事務局の中で整理したものとして、その会議資料等を調整させていただいて、こちらの会議に出させていただきたいと思えますし、この会議でいただいた意見については、その次のプロジェクトチームまでのところで、こういった意見があったっていうのは、共有させていただいて進めるっていうような形ですり合わせっていう表現になるのかはちょっとわからないですが、意見はどちらにもこういったのが出たっていうのは、話をしながら進めていきたいと考えております。

委 員： なるべくこちらの意見もできるとかできないとかそういうふうな部分ではなく、要は二つこう掲げられているというところで知っておきたい部分もあるなっていうふうなところもあります。そう感じるところもありますので、今お伺いしたところで、多分予算ですとか、枠組みを作るのがプロジェクトチームというイメージでいいですか。編成行政組織において内部的なメンバー構成であるということで、このこども計画の枠をこのプロジェクトチームで作って、中身をこちらで話すのかなというイメージがちょっと私できているのですが、もしその枠外の話が出たときに、それに対応していけるような話し合いができるのかなというちょっとした心配があります。

先にここからここまでの枠の中で話ちょうだいね、それが要はこども計画だよっていうふうに先んじて言われているような気がして、ここからここまでの間で決めてくださいね、これ以外のことは決めちゃ駄目ですよ、みたいな感じで言われているような気がしています。ここは結構現場の方々が集まっている会なので、組織の方々の話をしてこうだっていうふうにあてがわれているのと、その外側で話をすることが今までの会議でも多かったと思うので、そのときにそういった話をこの場でしたときに「それは違うので」みたいな。「この会でちょっと合わないの」みたいな話になると

、どうなのかなというふうな気がします。

何ヶ年か参加させていただいているところでのちょっとした違和感の部分を今、1回目で話しをさせていただいているような感じではあるのですけれども。その枠外といますか、プロジェクトチームの方でどういうふうな話をされているかということは今、私はわからないのですけれども、そここのところがちょっと気になるころではありますが、いかがですかね。

会 長： 事務局いかがですか。プロジェクトチームとこの会議との関係性みたいなところだと思うのですけども。

事務局： プロジェクトチームの時期もこちらの会議の前に、こういった会議の内容で審議をしていただきますということを、まず内部のものにも知っておいていただくといったような意味でのスケジュール感も持っております。

今回は先にプロジェクトチームだったので、今回この日にこういったことで、まず今日の中身をまず内部で知っていただいているっていうところもありますし、次のところにつきましては、今回こういう会議でこういったご意見が出ましたっていうことをまた共有させていただくっていうところもありますが、それほどプロジェクトチームの方で枠をガチガチっていうことではないのですけれども、ある程度のその方向性というか、必ず入れておかなければならないことや、こういった筋道でいかなきゃないというようなところはある程度決めておいた上で、その中で皆さんのご意見を取り込んでいくというような形にしないと思っております。

何もなくこうなってしまうとちょっと今年1年の時間では短いですし。夢が本当にいっぱい詰まったものにはなと思いますし、そういったものにしたいのですけれども、そこを目指すための時間配分といますか、ルートとしてプロジェクトチームを使いながら、子育て会議の皆さんにも審議していただきたい意見をいただくというような形を想定しておりました。

委 員： 今、課長がおっしゃったようなのだとすると、プロジェクトチームが出したものに対して私達が審議するっていうふうなものが子ども・子育て会議の中身なのでしょうかね。

事務局： すみません、そのように捉えたのであればごめんなさい、違います。子ども・子育て会議にかけるものをこういうものですよって前もって見ていただいているというような形になります。

委 員： プロジェクトチームで話し合ったことを私達が聞いて審議して、それでいいののではないとか、これはやめた方がいいのでないかというふうにするのですか。違いますよね。

事務局： 違います。

委 員： どちらかが突っ走っていくような感じがするのですが。

事務局： すみません。それはそうではなくて、こちらの子ども・子育て会議での審議を効率よく有効なものにするために前もって内部の協議を行うものです。

委 員： 先ほどのメンバーを聞いたら、そんなふうな感じがしたのですけど。私達は集まって、確かに子どもに関係する部署で集まってはいるのですが、私は違和感をすごく感じました。いらないのではないかと感じました。

事務局： 本当に申し訳ありません。そのように捉えられたのであれば、大変申し訳ありません。そうではなくて、子ども・子育て会議が主であって、こども計画を立てていくものです。諮問機関でもありますし、最後の答申を目指して、こちらで審議していただくものです。

そのために、子ども・子育て会議にこういったことを審議してもらいますよっていうのをあらかじめ内部で見てください。もしこの会議でこの意見を聞いてもらいたいとか、こういったものについてどのように考えているか聞いてもらいたいとか、もしあればそういったところも踏まえながら策定を行います。プロジェクトチームで枠を決めるものではございません。

委員： すごく時間かかるんじゃないですか。逆にいつまでたっても終わらないような感じがしないでもない。

会長： 先ほどのプロジェクトチームのご説明のメンバー聞いていますと例えばこちらで出た意見とか、そういうのは例えば予算とかいろんな仕組みの制度の中で、できるかできないかということも事務局としては多分共有しなきゃいけないと思います。こちらの意見は、意見としてこういうことをぜひお願いしたいというふうなことを率直に申し上げていけばいいのではないかなという話と思って聞いていました。

事務局サイドはこうしてくれとかそういうものではなくて、多分こういう意見が出て、庁内のいろんな法令とか、何かそういう予算とかいろいろあると思いますので、そちらの方とすり合わせたときに、またこちらにリターンが返ってきて、こういう事情でこうなるかもしれませんよというような枠組みの中で我々も考えていく。そういうキャッチボールが必要だと思います。

例えば、今までですとこの事務局だけだったものが庁内全体を少し巻き込んでやっていきたいというようなところもあるのかなと思って聞いておりましたけれども、どうでしょうか。

委員： すみません。プロジェクトチームと重複されている方はいらっしゃいますか。

事務局： 事務局は兼ねています。

委員： 例えばここで出た意見の中でプロジェクトチームではこういうふうな話がでていて、それについてその場でのリアルな話し合いもできるということによろしいですか。要は、先ほどの課長のお話だと、ここで例えば出た話を次の回で共有することになってしまうと、これ4回目ってなっていますけども、臨時の会議が開催されるなど、どこかで何かすり合わせをしていかないと間に合わないというふうに思います。なので、プロジェクトチームでの話がわかった方がいて、こちら側の話を聞いていただいた上で、プロジェクトチームでこういうふうな話が出ました、今子ども・子育て会議ではこういうふうな話をしていますというふうなリアルな部分で進んでいかないと4回で難しいなっていうふうにも思いますが、いかがですか。

事務局： はい。ご意見ありがとうございます。緊急性だったりとか、よりスピーディーにやらなきゃいけないというところにつきましては、プロジェクトチーム会議の方も集まっていたり、あとは集まらなくてもできる方法など早めにやる方法も考えながら、時期を逸しないような形でやらせていただきたいと思います。ご意見ありがとうございます。

会 長： 多分こちらの意見が少し風通し良くなっていくということを考えてらっしゃる部分もあると思いますので、その辺も踏まえてご意見いただければと思います。よろしくお願いたします。他にありますでしょうか。どうぞ。

委 員： ２ページの３番のこども計画策定のメリットというところで、地方単独事業というところですけども子ども・子育て支援機能強化に関わる施設整備であったり、子育て関連施設の環境改善というところで、子供用の広場とかあとは保育園の空調とかって書いてありますが、これに関しては学童の施設等には使えないものかどうかというところを教えていただきたいです。

会 長： 事務局よろしいでしょうか。

事務局： 今のご質問についてですが、地方単独事業として実施する場合ということで書いてあるものになりますが、学童の新設とか改修事業については、今も国の補助事業として国の交付金がありますし、そちらの建設にあたっては地方債ということで、借金にはなってしまうのですが、そういった制度が現在あります。そちらについては今の制度の国の交付金とかの制度を使うことができますので、国の事業を使って実施するのですけれども、今こちらに記載のある事業についてはちょっと国の方のメニューがないところになりますので、その場合にこのこども計画を策定していることで財政措置が受けられるというものになります。

使えないということではなく、今ある制度の国の補助の制度の中で実施するという形になると思います。

委 員： ありがとうございます。

あともう一つですが、その下の４番の「滝沢市こども計画の体系」のところですが、やっと今年度初めてこの計画が入ったかなと。一番下の星のところで滝沢市こども計画に新たに盛り込む計画というところでやっと学童の声が届いたのかなというところもあるのですが、放課後児童対策推進のための行動計画というところで、放課後児童対策パッケージっていうのは、パッケージ２０２６のことで進めていくという形でしょうか。

会 長： いかがでしょうか。

事務局： はい、ご質問ありがとうございます。

放課後児童対策パッケージ２０２６という概要というものはこちらの方でも把握しているところではありますけれども、まずは多様な居場所についてですね、パッケージ２０２６の方ではお示しになっているところもありますので、現在本市ではお世話になっている放課後児童クラブさん、あとは放課後子供教室ということであります。市では既存施設の活用も含めまして、新たな居場所作りについてですね、庁内の方での検討を進めるところでございますので、ちょっとこちらのパッケージのようにイコールっていうことではないかもしれないですが、現在、方向性はお示しできないのですが、これに沿った形で検討を進めていきたいなというふうには考えているところでございます。

委 員： あとすみません。私、県の研修を担当しているので、放課後児童対策パッケージのことについてはいろいろ勉強させていただいているところだったのですが、パッケージの中にタイムシェアだったりマッチングというところで、今すごく国で推奨され

ているところですが、まずタイムシェアっていうところは学校の空き教室だったり、何か使っているところで、空き時間に利用しようというのが、国で推奨しているタイムシェアというものになっています。そういった場合、例えばですが、学童保育の施設をそこでタイムシェアとして使ってくださいってなった場合、今日は音楽室、今日は理科室っていったような毎日毎日保育場所を移動させられるような状況のものはちょっと子どもの尊厳としてはどうなのかなっていうところがあります。

それからマッチングといいましてその空き時間に、例えば指導員が配置できない場合、今、タイミーとかって皆さんご存知だと思うのですが、タイミーでちょうど時間的にその場所だけ働くというような形の「一体この人は誰なのか」っていうような方が保育に携わるっていうようなところで、今かなり全国的に問題になっているところなんです。

学童施設、保育施設もですけど、子どもは安心できる保育者のもとで保育を行える状況にあるのかなっていうところもあるので、こういったマッチングとかタイムシェアいうところを、滝沢市としてはできれば推奨はしないでいただいた方がいいかなというところなんです。これは質問ではなく、意見として言わせていただきました。

それからですね、あと先ほどの全ての児童を対象とする放課後の居場所を庁内で考えていますということでしたが、今学童保育施設は定員数に対して、利用の児童数が200人も超えている状態でそれぞれの学童保育施設さんで受け入れを行っています。実際に保育施設が足りていない状態です。待機児童を出さないために各学童で受け入れを行っているところではあったので、この放課後児童対策パッケージは、今まで学童は使っていないとわからないというその他の児童っていうところで見られていたところだと思いますが、実際には滝沢市で4割を超えるお子さんが利用を始めているので、全ての子どもに該当するかどうかっていうよりは、実際に学童施設が足りないというところもこの放課後対策パッケージのところで並行して見ていただけたらいいかなという意見でした。

会 長： このようなご意見いただきましたけれども、何かございますか。

事務局： ご意見ありがとうございます。そういったところも含めて検討を慎重に進めてまいりたいと思います。ありがとうございます。

会 長： はい、ありがとうございます。他に何かございますでしょうか。どうぞ。

委 員： はい。質問させていただきます。

私からはこの滝沢市こどもアンケートについての質問でした。まず一つ目が、このアンケートですが、私ちょうど小学校5年生の保護者で、今小学校からいただいて、昨日ちょうど私回答し終わったところでした。子どもは学校で、タブレットで授業の中で回答したということで聞いていました。

一つ目は、この場合、中学生ってどうやって回答しているのでしょうか。それこそ小学校のように、学校の中で例えば授業の中でタブレットとかで回答するのか。それとも今スマートフォンを持っている中学生も増えているのかなと思うので、そういう形でも中学生ぐらいになると個人で回答するのかっていうのが一つ気になりました。これが一つ目です。

二つ目が、このアンケートは何かを参考にされて内容を作られたのか。こういったものを参考にして作ったのかということが気になりました。

あともう一つが、紐づけをするっていうことでお話を伺っていました。実際うちの子どものアンケートと私のアンケートもIDが同じ番号だったのできっと何かこう繋げて考えるのだろうなっていうのは予想がついたのですけれども、この紐づけをすることでの利点とか、どういうところを見たくて紐づけをすることになっているのかなっていうのを昨日アンケート答えながら気になっていました。それをどう今後どういうふうに反映したくてこのアンケートを今取っているのかなっていうところも気になりました。

この4点、中学生がどのように回答しているか。何を参考にこの内容を作っていたのか。あと、紐づけをすることでの利点、どういうところを見たくてアンケートをとっているのか今後それをどう反映していくのか、というところをまとめて質問いたしました。

事務局： ご質問ありがとうございます。

小中学生の回答については、教育委員会の方とも相談しまして子ども1人1台、今タブレット端末が配布されているっていうことでしたので、小学生も中学生もどちらも学校にある端末で回答していただいております。保護者さんはご自宅で、スマートフォンなどでご回答いただくようお願いしておりました。

あと、調査の内容ですけれども、今回計画策定にあたって、これまで他市町村の子ども計画を手がけた実績のある業者さんに協力をしていただいているのですけれども、これまでの他の市町村での計画策定に使ったアンケート内容などから、提案してもらったものをこちらで確認しております。内容についてはどこの市町村のどれをとというのはちょっと今すぐには申し上げられないのですけれども、対象が5年生と中学校2年生っていうのは、国の子どもの貧困対策に関する調査基準がそのようになっておりまして、それを基本に対象については設定になっております。あとはヤングケアラーに関する調査や、あとは国県でやっている学力調査のときの質問票っていうのもありますのでその辺りからも採用した項目もございます。

具体的にどことどこを結びつけてどう分析するかっていうところはちょっとこちらでも全部はわかっていないところもあるのですけれども、これまで既に策定した実績のある事業者さんから様々な全国の事例を教えていただいて、分析を進めていければなというふうに考えているところでございます。

子どもたちの素直な直感でどのように答えてくれるのかっていうのはちょっと出てみないとわからないのですけれども、子どもを対象にしたこういう大規模なアンケート調査っていうのが多分今まで市でやったことがないというところがあるので、まず子どもたちがどのように考えているのか、子どもの声を大事に受け止めながら、子どもたちのためになるような計画を作っていきたいなというふうな思いでおります。以上でございます。

委員： 現時点では具体的にこういうふうに紐づけをして、こういった視点で見たいっていうのはまだこれから決まっていくのでしょうか。このアンケートが出てきてから決まっていくっていう感じでしょうか。

事務局： 例ではありますが、貧困の関係です。問いの何番だったかってすぐ出てこないですけど、自分が使うことができる物とかお金とかっていうものを子どもたちがどう思っているのかっていうところと、保護者さんの経済状況のところなど、そこら辺が親の状況と子どもの思いにどういうふうな差が出てくるのかとかそういったところは紐付けて分析することができるのではないかっていうふうには思っております。

あと項目が多すぎるのでこれとこれがというのはちょっとすぐには出てこないですけどもそういったことで紐付けて、今、実際子どもはこうしているけれども、本当は、子どもはこうしたいって思っているみたいなそういう差が出る項目があるのではないかなということも思っております。親の都合ではないですけど、親が考えるこうだったら安心して暮らせるっていうところと、子どもが自分は、本当はこう思っているみたいなのところがもしかしたら出るものもあるかもしれないなっていうところでそういった違いなどは、見ていければというふうに思っております。

委員： ありがとうございます。このアンケートの結果は何かしらこの形で公開されるのでしょうか。

事務局： はい。今のところまず調査の期間が若者も含めてですけれども7月までなので、その後分析し、調査を取りまとめた結果については報告書を業者さんから出してもらって、それをもとにいろんな骨子案などもこちらでも考えていくのですけれども、第2回のこちらの会議にもそのアンケート結果は出させていただいて、皆様からもご意見をいただければなというふうに考えております。

委員： わかりました。ありがとうございます。

会長： よろしいですか。他にございますでしょうか。はいどうぞ。

委員： この5年生と中学2年生にしたっていう理由を聞かせていただきたいです。令和9年の策定を目指すということで、もう5年生で取った後、もう6年生になって、中学校になってしまうと思います。要は子どもに直接聞いて答えられるとなると、妥当なかもしれないのですが、親への質問アンケートとしては、もうちょっと例えば小学1年生とか小学2年生の保護者対象っていうのもあり、そこから汲み上げるということもあると思います。だいたい数が大きくなっちゃうので、先ほどの大規模な調査は初めてっていうふうなこともお伺いしたのですが、やるのであればもうちょっとそっちの方から聞いていっていただきたいなっていうふうにも思います。本当にこれが令和9年で策定になるのかどうかっていうのを考えた場合に、もうそのデータっていつのデータっていうふうな感じにもなりかねないような気がしています。今もって例えば保育園・幼稚園から小学校に上がる段階の壁の云々だとか。そういったところの汲み上げというのはこども計画には反映しないっていうふうなものなのですかね。先ほどから発言させていただいたこの枠の中で話してよっていうふうなことでしょうかね、これも。

会長： 2つですかね。その年齢の問題と、その枠組みのことについてはどうかということだと思いますけど、事務局いかがでしょうか。

事務局： ご質問ありがとうございます。まず対象を小学5年生と中学2年生にしたというのは、国が行っている子どもの貧困対策に関する調査、それから県の学力調査の対象も

その学年であることなど、そういった調査の対象が、小学5年生と中学校2年生というところなのでそれを参考にさせていただいて学年は設定をいたしました。

あと、ちょっと資料に小さく書いているのですが、3ページの5のアンケート調査の区分が書いている下の1行に※印で、その他幅広い意見の聴取について検討中と書かせていただいておりますが、まず今回対象を絞っているのですが、これだけでは当然足りないっていうのは私達も思っているところでして幅広い意見の聴取をどのようにするかっていうのを内部の方で検討しまして、8月に予定されている滝祭、産業祭りの場で若者活躍推進室が出すブースのところで協力していただいて来場者さんからご意見をいただくような場を作りたいなと思っております。実際のやり方については、他の事例などを手がけているその事業者さんからもいろいろご意見をいただきながらこれから検討はするのですけれども、そういう場で広くいろんな年代の方からお伺いできればなというふうに考えています。

あと、情報が古いついていうふうになってしまうかもしれませんが、今動いている第3期の子ども・子育て支援事業計画を策定するときにとったアンケート、就学前の子どもさんの親御さんであったり、小学生の親御さんからとったアンケートがありまして、そちらを改めてもう1回見てみて分析や、もう1回洗い出しをしながら、どのような思いであるかっていうところなども、もう一度見て、その他の各課でとったアンケートなどもあるかもしれないのでそういったものをもう一度見ながらたくさんの方の意見を見ていければなというふうに考えております。

委員： ありがとうございます。前に取った就学前のアンケートなどそういったものも本当に参考にさせていただいて、良い計画にできればいいと思います。個人的な要望としては、今から新しいのを取っていただきたいなという思いはあるのですが。私一番下が小学校1年生ですので、今どうなんだっていうふうなところで、答えていければいいなっていうふうにも思いますし。もし間に合うのであればというところで個人的な要望も一つ入れさせていただきました。

会 長： 先ほど、幅広い何かいろんなことを考えているようですので、今の意見が反映されればと思います。よろしくお願いいたします。

はい、どうぞ。

委 員： 今ざっとこどものアンケートの中身を見たのですが、中学生は今反抗期ですよ。本当にこれで何か結婚したいと思いますかとか、こんなのでいいのかなという。感じがしました。最近テレビなんかで本当に全国的に事件がいっぱいありますよね。子どもや中学生とか高校生の事件がいっぱいになって、またそういう時代になったのだなと思ったんですね。昔学校崩壊みたいなことありましたよね。学校でなかなか授業ができないとか、何かそういう問題が出てくるとまたこういうことが始まるのかなっていう不安を持っているときに、将来の結婚に対して持っているイメージを教えてくださいとかね。そういうのを意味あるのかなと思いました。すみません、これは意見だけです。

会 長： はい、ありがとうございます。はい、どうぞ。

委 員： 中学生のアンケートに関してですが、このアンケートは私も見ましたし、うちの保護者さんの中で、ちょうど中学2年生に該当するご家庭が何世帯かいらっしゃって、

滝沢市からアンケートが来たけれど、滝沢市は貧困を何か調査しようとしているのかな、どうなのかなっていう話がありました。今日まで私もアンケートの詳細はわからなかったので、貧困を調べたいのか、子どもの困りごとを調べたいのかどういった趣旨でのアンケートだったのか教えていただきたいです。

会 長： 事務局よろしいですか。

事務局： ありがとうございます。こども計画の本当の中心になるのが国のこども大綱に関わる場所なので、このこども大綱の中で少子化対策であったり、子どもの貧困の解消に向けた対策を作成する必要がありますので、そういったところで、貧困の関係であったり、小学生とかに結婚について聞くのは早いのではないかなというような思いもあるとは思いますが、将来のことを見据えた現状把握ということで、そういった設問が入っているものでございました。

委 員： ありがとうございます。おうちの方からはすごく家庭のことを根掘り葉掘り聞かれるような感じのものだったり、実際子どもと一緒にアンケートをやった方は、何かとても子どもにお金がないことを晒すようで、なんかちょっと気持ち的にあんまり良くないアンケートだったっていうところで、このアンケートの内容とかももし今後取るのであれば、子ども・子育て会議にどのような意見を入れたらいいでしょうかねっていうところ、意見の反映というところでお願いできたらいいかなと思います。

会 長： はい、ありがとうございます。ご意見ですけれどもよろしく願いいたします。他にございますでしょうか。はいどうぞ。

委 員： こども・若者の方のアンケートを拝見しました。ここまで作るのにどれだけのご苦労があったかと思うと察するのですが、小中学生の方のアンケートと違って、こども・若者の方は今後の結婚の希望とか子どもを持つ希望が、「はい」と「いいえ」の2択になっていて、子どもの方はわからないとかそういうものもあるのですが、実際大学生の調査で、男子は特に半数以上がわからないと回答している。これってそういうことを考えたことがないという表れなのかなと。ライフプランを考えたことがない。もしこれから変更可能なのであれば、ここに「わからない」を入れて、考えてないのかなっていうところが明らかになっていいのかなと思った次第です。

あと先ほど8月に滝祭で実際の生の声を来場者に聞くっていうのはすごくいいなと思ったのですが、もし可能であればお祭りのついででもいいのですが、ちょっと若者をこういう目的でと言って集めて、ざっくばらんにグループでインタビューするみたいなものも、いろんな意見とか出るのかなと思ったので今後ご検討いただけたら、大学生とかを招集しますのでご検討いただければと思います。よろしくお願いします、以上です。

会 長： ご意見でしたけど事務局何かございますか。よろしいですか。はいありがとうございます。他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で質疑応答については終わらせていただきたいと思います。

本日の進行に皆さんご協議いただきまして本当にありがとうございました。議事の方は以上でございますが、事務局何かございますか。

事務局： はい。大塚会長ありがとうございます。委員の皆様も様々なご意見どうもありがとうございます。本当にいいものを目指して、今年度駆け足になるかもしれませんけ

れども皆様とともに一緒に作り上げていきたいと思いますので、どうぞご協力の方よろしくをお願いいたします。

7 その他

事務局より、滝沢総合公園に新たに設置したインクルーシブ遊具について紹介（6月12日10時から現地でお披露目会を行い、その後供用開始）

次回の会議を9月30日（水）に開催することとした。

8 閉会

会議の一切を終了。

議事録署名委員

議事録署名委員